

報道関係者各位

ネットラーニング、日経BP社による「第1回 クラウドランキング」で ベストサービス賞を受賞、143社中で最高スコアを獲得

株式会社ネットラーニング（代表取締役：岸田 徹、本社：東京都新宿区）が提供する SaaS 型ラーニング・マネジメント・システム「ネットラーニング・プラットフォーム」は、日経 BP 社（社長：平田 保雄、本社：東京都）の IT 系総合メディアである「日経コンピュータ」と「ITpro」が共同で制定する「第1回 クラウドランキング」において、汎用情報系 SaaS 部門の“ベストサービス賞”を受賞しました。

この賞は、参入相次ぐクラウドコンピューティング市場でユーザーの指針となることをめざして制定されたもので、ベストサービス賞は「クラウドらしさ」、「既存システムからの移行のしやすさ」、「情報公開の程度」などを重視して評価され、「ネットラーニング・プラットフォーム」は、今回調査対象となった 143 社のうち、最高スコアの 76.6 点を獲得し、ベストサービス賞に選ばれました。

■ ネットラーニング・プラットフォームについて ■

統合型多機能 LMS（ラーニング・マネジメント・システム）

～SaaS+（ソース・プラス）型だからこそ実践できる「信頼性」「拡張性」「コスト削減」

ネットラーニング・プラットフォームは、eラーニング運用基盤としてネットラーニングがサービス開始以来 10 年の歳月をかけて独自開発した SaaS 型プラットフォームです。eラーニングの受講だけでなく、受講者の進捗・成績管理、SNS・掲示板などのコミュニケーションツール、アンケート機能、eラーニング作製機能などが 1 つに統合された多機能プラットフォームで、約 3,300 社に利用された実績により、高い信頼性と堅牢性を築き上げてまいりました。統合されることにより、拡張性とコスト削減に威力を発揮します。この SaaS 型プラットフォームに、「人」による運用サポートをくわえた「SaaS+（ソース・プラス）型」で運用効率を最適化します。



第1回クラウドランキング

ベストサービス賞

汎用情報系 SaaS 部門

(日経コンピュータ 2010年9月29日号)

<第1回 クラウドランキングの概要>

「第1回 クラウドランキング」は、日経コンピュータと ITpro が共同で制定したもので、クラウド時代をリードするとの期待を集めるベンダーを「ベストブランド」に、クラウドらしく移行もしやすいサービスを「ベストサービス」に選定し、参入相次ぐクラウドコンピューティング市場でユーザーの指針となることを目指しています。

ベストサービス賞はベンダー143社へのアンケート調査で、クラウド関連サービスの仕様を 30～45 項目にわたって調査した結果に基づいて選ばれました。評価は「クラウドらしさ」と「既存システムからの移行のしやすさ」、「情報公開の程度」などを重視して一定の基準で実施され、「ベストサービス」には①クラウド基盤サービス (IaaS/PaaS)、②汎用業務系 SaaS、③汎用情報系 SaaS、④特定業種業務向け SaaS、⑤パブリッククラウド導入支援、⑥プライベートクラウド構築支援、⑦データセンター —— の 7 部門で 20 サービスが選出されました。

▼日経 BP 社プレスリリース

<http://corporate.nikkeibp.co.jp/information/newsrelease/newsrelease20100928.shtml>

※「汎用情報系 SaaS 部門 ベストサービス」受賞企業とサービス一覧は次ページ参照

■「ベストサービス」受賞企業（汎用情報系 SaaS 部門）

企業名（サービス名）	総合スコア
● 汎用情報系 SaaS 部門	
ネットラーニング（NetLearning Platform）	76.6
アリエル・ネットワーク（ArielAirOne on Demand）	74.8
グーグル（Google Apps Premier Edition）	72.7
マイクロソフト（Microsoft Online Services）	70.0
フィードパス（サイボウズ デヂエ 8 for SaaS）	66.7
ブイキューブ（V-CUBE）	65.6

【参考：調査項目について】

調査項目は合計で 39 にわたり、各項目は (1)サービス内容、(2)カスタマイズ関連、(3)料金関連、(4)契約関連、(5)信頼性関連、(6)保守・サポート関連、(7)運用・セキュリティ関連、(8)実績関連の 8 分野に分かれています。

全体で 100 点満点となるように配点し、平均値が 50、標準偏差が 10 となるように標準化して総合スコアを算出。総合スコアが 65 以上だったサービスが「ベストサービス」として認定されています。

< 調査項目の 8 分野 >

(1)サービス内容（3 点）

サービスの種類、サービスの内容・特徴、利用可能なクライアント種別

(2)カスタマイズ関連（19 点）

画面のカスタマイズ方法、業務ロジックの設計・構築方法、データベースの設計・構築方法、メニュー表示可能な言語、データとして処理できる言語、他システムとの連携方法

(3)料金関連（8 点）

初期費用、料金体系、利用料金の課金単位、決済方法

(4)契約関連（15 点）

利用開始時の申し込み方法、設定変更時の指示方法、最低契約期間、利用開始までの期間、設定変更にかかる期間、途中解約ペナルティの有無

(5)信頼性関連（15 点）

保証するサービス稼働率、サービス停止と見なす処理途絶時間、ペナルティの内容、計画停止の通知時期、障害・災害発生時の通知方法

(6)保守・サポート関連（18 点）

サポート時間、サポート受け付け方法、データのバックアップ間隔、バックアップデータの保持期間、システムログの開示、専任担当の有無

(7)運用・セキュリティ関連（13 点）

ユーザーデータの保証、データ消失時の補償内容、契約終了時のデータ返却、国内のデータセンターを指定可能、外部機関によるセキュリティ認証

(8)実績関連（9 点）

日本国内における法人ユーザー数、全世界における法人ユーザー数、最大規模のユーザーの利用者数

（第 1 回クラウドランキングの詳細は、日経コンピュータ 2010 年 9 月 29 日号、および ITpro サイトに掲載）